

## 大阪市都市計画審議会で2度目の「陳述」

昨日 10 日 9 時半から、令和 3 年度大阪市都市計画審議会が市会特別委員会室で開催され陳述した。じつは昨年 9 月 18 日にも「都市計画マスタープラン」で陳述した。このとき傍聴者は私 1 人であり、報道関係者もいなかった。今回は定員を超える 13 人の傍聴者、報道関係者や関係者も多数詰めかけた。

議案は「大阪都市計画地区計画の決定について」（森之宮北地区地区計画）である。事務局から議案の説明・提案のあと、提出された意見書（私が提出した 1 件）が 6 点にわたり整理され、それに対する本市の見解が詳しくスライドで紹介された。傍聴者らがいったん退席して、私の陳述が非公開で行われた。5 分以内なので、3 日前に提出した「陳述申入れ書」をもとに委員の前で次のように陳述した。

新型コロナ感染拡大というパンデミックは、大阪の経済社会や市民生活を揺るがしている。本都市計画はこうした深刻な事態を考慮して作成されたのではなく、コロナ禍以前の「既定方針」に沿ったものではないか。

提案されている地区計画は、「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」をベースにしたもので、先に新大学キャンパス計画があり、それを「先導役」として都心部の再開発、スクラップ・アンド・ビルドを推進するものだ。「東西軸」というが、西の夢洲は万博・IR カジノ、東の森之宮は大学を起爆剤にした大規模開発。コロナ禍で、こんな大規模開発を繰り返していいのか。

4 地区のなかで A 地区は新大学の都心キャンパス整備だが、7000 人とされる学生・教職員に見合った良好なキャンパスが実現できるのか。地元住民説明会で、駐輪場は 20 台分だけという説明に不安の声が上がったという。周辺地区の居住環境への影響が強く懸念される。（時計を見ると、ここで 4 分経過）。残る時間を「大阪府市一元化」と大阪市都市計画の大幅変更。とくに本地区計画の大阪城東部地区の広域拠点開発は、大阪府市共同の咲洲に設置される「大阪都市計画局」で執行管理される。こんなことで、地区計画を適正に実施できるのか、大阪市都市計画審議会の責任が果たせるのか。

私の陳述のあと、山中智子委員から多くの質問が出され、事務局から説明があった。拙速な手続きで、地域の声が届いているのか。駐輪場に象徴される新大学問題とともに、周辺地域への影響など懸念が表明された。そのあと挙手採決が行われ、山中委員を除く賛成多数で議案は承認された。

昨年の審議会レポートでも指摘したが、山中委員のほかは、だれも発言しないことに疑問を感じる。今回は市民生活に直接関わる問題であり、コロナ禍の影響により、都市計画をめぐる環境も激変している。多数を占める維新の議員は別にして、そのほかの党の議員は何を考えているのか。学識経験者の委員の皆さんは何も疑問を感じないのか。審議会などで毎回発言してきたので不思議でならない。

(2021 年 9 月 11 日)